

山田みやこの活動報告

令和元年8月1日(木)

世田谷区ヤングケアラー・若者ケアラー支援シンポジウムに参加

会場 世田谷区 成城ホール

〈第一部〉基調講演

「ケアを担う子ども・若者について伝えるということ」

講師 成蹊大学文学部現代社会学科准教授 澁谷 智子氏

ヤングケアラーとは病気や障がい、精神的問題、アルコールや薬物依存などを抱える家族の世話をしている18未満の子どもや若者をいう。

ヤングケアラーを支援するには、悩みを話し合ったり楽しい時間を過ごすことのできる場所の提供。家を担っている過度なケアを減らす。そして、ヤングケアラーへの社会の意識を高める。イギリスでは公立中学校のヤングケアラー説明会で「スージーの一日」という劇を上映しヤングケアラー研修会では、教職員や行政関係者を対象に日本語に翻訳して「愛子さんの一日」を上映し、実際に元ヤングケアラーだった方の話を聞いた。

ヤングケアラーは自分の事に時間が取れず、自己肯定感や自信がないと思われているが、年齢の割に身についた生活能力が高く、忍耐強く、思いやりがあり、病気や障害への理解が深い等プラス面を言葉にしていくことが必要。そのうえで過度なケアを長期間担う時には、他者のサポートが必要と伝える。子どもに接する大人は、子どもが置かれている状況や気持ちを理解しなければならない。そして、子どもにとって親や、家族のケアをすることが当たり前とみられがちだが、助けを求めていることを伝えることも必要。更に遅刻、居眠り、忘れ物が多いなど生活場面から子どもの変調を察知すべき。子どもが信頼できる存在も求められる。「この人なら相談できる」と。そして「自分の人生を自分らしく生きていい」と年齢に応じてメッセージを伝える。

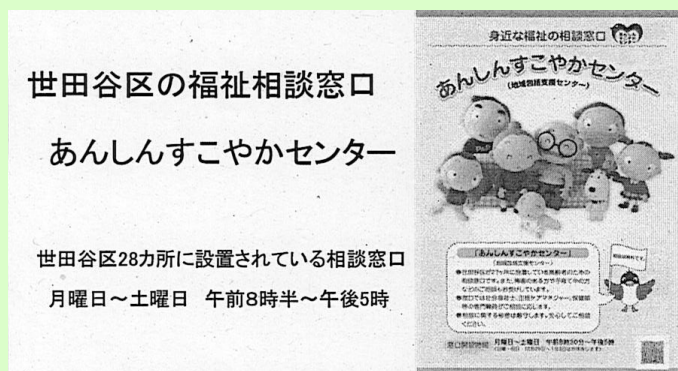


イギリスの公立中学校の
ヤングケアラー説明会で
行われている劇
「スージーの1日」



一方ヤングケアラーは行政の役割ではどこが担当部署になるのか曖昧。(子供福祉なのか高齢者福祉なのか?等) 子どもは今の現状を言葉にして伝えるのが難しい。周りの大人はヤングケアラーかもしれないと思う子に会ったらまず声掛けをして、丁寧に話を聞く。小さくても積み重ねがヤングケアラーの環境を変えていくことに繋がる。

※世田谷区では福祉相談窓口「あんしんすこやかセンター」が28ヶ所に設置されている、通称「あんすこ」。本県においては昨年の一般質問の中で課題としたが、まだまだ理解されていない。今後の課題として更に取り組んでいく。



〈第二部〉パネルディスカッション

「ヤングケアラーがつながれる仕組みを考える」

コーディネーター 澁谷 智子氏

パネリスト

坂本 拓氏(元ヤングケアラーで精神疾患の親を持つ子どもの会「こどもぴあ」)

河島 貴子氏(世田谷区総合支所保健福祉センター健康づくり課長)

匿名参加(元ヤングケアラー社会福祉士)

〈坂本 拓氏〉

母親がうつ病・パニック障がいを経験した中1の時に発病。家庭の中の笑いが無い。母の話を聞き寄り添い続けたが、自分のせいかもしれないと誰にも相談できなかった。母から死にたいと言われ、自分が近くにいても生きる理由になれず大好きな母なのに死ねばいいと思った、辛かった。家庭内の事、自分の感情を話せなかった。

そこで「こどもぴあ」に出会う。同じような環境の子どもが語り合う場、体験談を聞いて一歩踏み出した。こどもぴあの活動は3ヶ月に1回のつどいがある。全国から参加もある。

〈匿名 元ヤングケアラー〉

母が祖父母との折り合いが悪く、自分がケアをした。大学進学を断念し、地元の私大看護学部へ進学。しかし2年で中退。東京の社会福祉学部3年に編入。現在は病院のメディカルソーシャルワーカー。

ケアのこと ひとりで悩まないで… 「ヤングケアラー・若者ケアラー」を 孤立させないために

病気、障害、高齢等の家族のケア（身の回りの介護、感情面のケア、家事、家計の管理等）を担っている方（ケアラー）のうち、18歳未満の方を「ヤングケアラー」、18歳～30歳代までを「若者ケアラー」といいます。

世田谷区

こんなことで、困っていませんか

- 病気、障害、高齢等の家族のケアで追われ、学校生活や仕事と両立できない。
(遅刻・欠席が多い、宿題が出せない、部活に参加できない 等)
- 人生における大きな決断をする際、ケアのことが心配になってしまう。
(進路、就職、居住地、結婚、出産 等)
- 相談相手がいない。共感してもらえる人がいない。

こんなときには…

まずはご相談ください！

- ・各地区の「あんしんすこやかセンター」(地域包括支援センター)にご相談ください。
- ・社会福祉士、主任ケアマネジャー、保健師等の専門職員がご家族の状況に合わせ、適切な支援を行います。

つながろう！(ピアサポート)

- ・同じ悩みを持つ方との交流や情報交換ができる場所があります。

相談無料です

あんしんすこやかセンター
イメージキャラクター あんすこ様

連絡先は裏面へ

ケアで困っている人に気づいたら

《周囲の皆さんへ》

各地区の「あんしんすこやかセンター」をご案内ください。ご本人以外の周囲の方など、どなたでもご相談いただけます。

《サービス提供者の皆さんへ》

介護者にも目を向け、必要に応じてケアプランの見直し等のご支援をお願いします。

ヤングケアラーの時は友達と遊ぶ時間もなかった。学校の先生から声を掛けて欲しかった。（どうして学校を休むのか等） 医者も祖父母の病状の説明のみの支援でヤングケアラーへの認識やカウンセリングなど支援に繋げて欲しかった。

〈河島 貴子氏〉

世田谷区では、ヤングケアラー支援として高校へ出向いて話を聞き、医療機関に同行。心ある看護教諭が子ども支援センターへ連絡。相談窓口としてあんしんすこやかセンターを区内に28か所設置。

しかし、行政は手探りの状態。ヤングケアラーの認識を持つ相談員の養成や医療機関との連携も更に必要。

※表面化しにくいヤングケアラー。それ故にヤングケアラーの葛藤・矛盾・罪悪感など感情を受け止めにくい。そして経済的な困窮も顕在化している。ヤングケアラーは各県市町での取り組みに格差がある本県においてもこれからの取り組みが求められる。